

満濃池龍神伝説

- ① むかしむかしのお話です。満濃池に1匹の龍神が住んでいました。龍は天気の良い日には、蛇の姿になって池の堤で日向ぼっこをしていました。
- ② ある日のこと、いつものように龍が蛇に化けて日向ぼっこをしていると、そこに鳶が飛んできました。鳶は堤で寝ている蛇を見ると、目を輝かせ「これはうまそうな蛇だ。」と蛇に飛びかかりました。
- ③ 鳶は蛇を、自分の住処にしている山の洞窟に連れ去って行ってしまいました。「さあて、こいつは後でゆっくり食べよう。ちょっとこれから都にでも行ってみるかな。」そう言って、鳶は龍が洞窟から出られないように閉じ込めてしまいました。実はこの鳶は天狗が化けた姿だったのです。
- ④ 「龍の姿に戻ればあの天狗を懲らしめることができるのだが…。」しかし水がなければ元の姿に戻ることができません。「こんな洞窟の中で、どうしたら元の姿に戻れるだろう。」と思案していたところ、今度は都のお坊さんが天狗にさらわれてきました。見ると、お坊さんは水瓶を持っていました。手を洗おうと外に出た時に、持っていた水瓶ごと連れてこられたようです。
- ⑤ 龍神の蛇は、「お坊様、お願いがあります。私は今はこのような姿をしていますが、本当は満濃池の龍神なのです。その水があれば元の姿に戻り、天狗を倒す事ができます。どうかその水を私の体に掛けてください。」と頼みました。
- ⑥ お坊さんが恐る恐る水を掛けてあげると、蛇はたちまち元の立派な龍神の姿に戻りました。びっくりしているお坊さんに龍は言いました。「さあ、お坊様、私の背中にお乗りなさい。お寺に送っていきましょう。」龍はびゅーんと飛んで、さらに飛んで、あっという間にお坊さんをお寺に送り届けてあげました。「私はこれからあの天狗を懲らしめに行きます。聞いた話では、あいつは京の都でたいそう悪いことをして、人々を困らせているそうではないですか。」
- ⑦ 龍神は、空から天狗を探しました。「見つけたぞ！」天狗は、今度は荒法師に変身して、けんかや盗みを働いていました。「天狗ごときが何に化けようと、私をだませるものではない！」龍神は天狗に襲いかかりました。天狗がそのあとどうなったかは、誰も知りません。しかしそれから後は、都も平和になり、讃岐の平野には豊かな実りが約束されたということです。